

EASTER VILLAGE

イースタービレッジだより・第 23号・クリスマス号



誕生、ありがとう クラリス

「誕生日おめでとう」は一般的な表現だろうが、何か他人事のような感じを受ける。一人の人がこの世に生まれた喜びを表すならば、「誕生、ありがとう」ではないだろうか。あなたがこの世に生まれてくれて本当に良かった。あなたの存在なくして、今のわたしがいないと思えるほど愛しみをもつのであれば、その人の存在に対しておのずと感謝の気持ちが湧き出てくる。そして、何があっても、命を落としてもその人を守ろうとする。無私の愛、無償の愛とも呼ぶものであるうか。

「生まれたての赤ちゃんの目には天国が映っている」とドイツでは言うそうであるが、まさに赤ちゃんの目を見ているとそう思う。どのような状況で生まれついたにせよ、子どもには愛されるだけの存在価値と権利がある。赤ちゃんの瞳を見ながら、その将来を夢見、不安と期待が交錯する。そして、生まれてくれてありがとう、とつぶやく。身重のまま旅を続けたヨゼフとマリヤ。旅の途中で宿もなく、馬小屋でイエスを産んだ。二人が赤子イエスの瞳を見たとき、何を感じただろうか。何としてでも守りたい無償の愛を感じたのではないだろうか。そして、「生まれてくれてありがとう」と言ったに違いない。この言葉は、いずれ世界中の人たちの「メリークリスマス」の挨拶の言葉となる。「クリスマス、おめでとう」は、イエスの存在、自分の命を落として善人も悪人も愛する十字架の姿の中に凝縮されている。どこまでも愛し続ける者の姿、傷だらけになり、血を流しても他の者の存在に「ありがとう」を心から言える者の姿。そこにこそ、人となられた神の姿をキリスト者たちは観るのである。

イエス・キリストの誕生 降誕祭は、すべての人の存在の祝日でもある。あなたがいてくれてありがとう、と言える人は、今、あなたにはいるだろうか。師走、多くの人たちがそれぞれの帰るべきふるさとに行き、家族との再会を喜ぶ時期。帰るべき場所のない人、家族と離れ離れになってしまった人、そして、自分の存在を憎み、軽視する人たちにあって、真のクリスマスが訪れますように。あなたがいてくれて、本当にありがとう。

祐川郁生神父



思い出詰まったE Vを今日で出て行きます。旅立ちの時に、他の子どもたちは別れを惜しんで泣きましたが、暖かく見送りました。いつか遊びに来てね、クリス。

クリス、元気でね

クリスがこの度、父親の妹に当たる叔母のところで暮らすことになりました。マニラは遠いですが、時々手紙もくれるように言ってお別れをしました。兄のマイマイと弟のアルアルはジエネラルサントス市でお父さんと暮らしています。



家族月・共に祈る家族は共に住むがテーマ



愛国月は、国の花などフィリピン独自の文化を象徴するものを大事にする月です

E V C C 便り

イースタービレッジ・チャイルドケアセンター(E V C C)は、他のセンターと同じように、国の指定月をお祝いします。八月は愛国月、九月は家族月、十月は子ども月を祝います。



消防署を見学。火事の恐ろしさを聞きました。今後消化訓練も企画中

E V C C の子どもたちは消防署や警察も見学。少しずつ色々なことを学んでいます。また、市内の12園が集まったの子ども大会にも初出場。踊りや歌、タレントを競い合いました。



E V の子どもたちと一緒に家族月をお祝いしました。市の健康センターの協力を得て、血液型を調べました。



初出場で得意のダンスを披露するインダイ(左)とターザン(右) だいぶサマになってきました。



警察署、悪いことをすると捕まるよ。みんな、良い子にしてみました。

ケインちゃん、心臓手術成功

職員のロットロットの子どもは、心臓疾患があり、一歳になるまでに手術をしなければならぬ状況でした。たより19号でもご紹介しましたが、聖路加病院のルカ・ジャパンのメンバーが昨年E.Vを訪れたときに、何とかケインちゃんの手術の手助けをしたいということで、E.Vに来たメンバーが中心となり、マニラのハートセンターのみで可能な難しい心臓手術の費用を集めてくださり、今回の手術が可能となりました。多くの方々の支援と祈りが通じ、心臓手術は成功しました。

ルカジャパンの皆様、また、ご協力くださった方々、特に、奄美大島の医師会の多大なご協力に感謝いたします。



マニラに出発する朝、不安の涙を流しながら見送りましたが、今は命の喜びの涙で迎えました。ありがとうございました

フィリピンでは難病で苦しむ人々への援助は皆無に等しく、費用がまかなえずに死を待つ患者が多くいます。福祉とは名ばかりの状況が続いています。一つの小さな出会いが一人の大きな命を救ってくれた出来事です。この輪がさらに広がることを祈りつつ、E.Vは一人一人の子どもの出会いを大事にこれからも歩んでいきます。

新しい壁のデザイン

だいぶペンキがはげていた壁のデザインを新たにしました。楽しい絵に仕上がりました。



近所の人たちにも評判が良いです。通りがかりの人が楽しそうな顔をして見て行きます。



ご寄付いただいた方々、

心より御礼申し上げます

(敬称略、順不同)

カトリック北26条教会
 真駒内教会 佐山淑子 蒲地雪憲
 円山教会E.Vを支える会
 ドリトルの会・白井ふみ江
 カトリック月寒教会バザー委員会
 飯塚雄介 祐川眞一 三好ヒサ
 米山正枝 阿部秀子
 聖心女子大学同窓会宮代会北海道支部
 舛田富栄 三戸寿子 雪田留美子
 さゆり幼稚園・保護者の会
 蒲地雪憲 西村尚子 榎本みつ枝
 伊藤巖 杉澤愛子 丹羽裕美子
 阿部壽秋 山岡安江 池島テレジア
 カトリック北広島教会
 扇谷ウタ子 AKOの会
 大竹紀子 野田正弘 芳賀良子
 水曜会 カトリック北広島教会
 駒井健一郎 端博子 宮崎喜代子
 林英幸 佐藤かほり 佐藤道子
 小西淳子 鶴田幸子 会津隆司
 久保田政紀 美乃谷敬三 水口透
 その他匿名の方々

2008年8月20日～11月7日

イースタービレッジの子ども月

子ども月のお祝い

今年の子どもの月のお祝いは、EVとECC、それに、いつももお招きしているCIC（保護観察施設）の子どもたちで盛大に行われました。EVCCの子どもたちは午前中まででしたが、午後は、EVとCICの交流会のような形になり、歌や踊り、美味しい食事やおやつを食べずばらしい交流のひと時になりました。この様子はホームページでビデオで見られるようにしております。楽しい交流の様子と子どもたちの笑顔をご覧ください。



毎年10月に行われる子ども月、楽しい一日でした



左がフィリピンのバナナ食べ競争、右が日本から学んだパン食の競争。札幌の青年たちから教えてもらいました。



EVCCの子どもたちがまず踊ります。とってもキュート



「小麦粉の中に混ぜられている餡を探せ」で大奮闘のジュンジュンとベルナ。手を使ってはいけません。



フィリピンは6月に新学期が始まり、10月までが前期、11月から3月までが後期の二学期制です。前期と後期の間がいわゆるセメスターブレイクという休暇になります。

この時期は、奨学生も休みですので、EVに来て、子どもたちに読みかかせや、勉強のお手伝い、洗濯や掃除などのボランティアをしてくれます。子どもたちもお兄さん、お姉さんが帰ってきたように、嬉しい時期となります。

セメスターブレイク



CICの子どもたちと記念撮影

フィリピンのクリスマスは9月に始まりです。11月ともなれば、待降節前から町中でクリスマスキャロルが流れます。EVでも飾りつけを始めました。

もうすぐクリスマス



札幌のインナーホイルクラブがスポンサーとなっているエイプリルアン。ダバオでソーシャルワーカーの勉強中。



エイプリルアンが読みかせをしてくれました。「少年と木」英語の本をビサヤ語で語ります

毎年、年末にはモールツアーを企画します。これは、子どもたちの社会的センスを養うことや、お小遣いを自分で管理し、有効に計画的に使うことを目的としています。部屋から洗面所へのドアを押し合いて壊した男の子たちは、お小遣いから一人50ペソずつ引かれてしまいました。

モールツアー

イルミネーションも飾りますが、今回は間に合いません。次号に掲載します。



馬小屋の前で祈りを捧げ、皆の幸せを祈ります



まるで夢を見ているみたい。不思議な興奮を味わいました。

ガイサノモールとSMモールに行きました。そこには、なんと色々なキャラクターが・・・子どもたちは興奮気味。一緒に写真を撮らせてもらいました。



今回も中島さんが、資金的にも協力してくださいました。子どもたちの笑顔のためにと。

バオ遠足があるため、今回は小学生以上のツアーでした。



お昼は大きな鳥、ご飯は食べ放題。思いっきり食べました。腹が減っては買い物できん。



ゲームコーナーで遊びました。普段は自然の中で遊んでいます。やっぱりゲームも楽しいです。



ジョビーや上の写真のキャラクター(不明)などが普通に歩いていました。子どもたちには夢のようです。



誕生日おめでとう

9月生まれはクリスマスとインダイ、それぞれ十歳と六歳になりました。お知らせしたようにクリスマスはE.Vで祝う最後の誕生日。来年は新しい家族のもとでお祝いすることでしょう。お元気で。



兄妹一緒に誕生を祝いました。大きなケーキに大喜び。願いを込めてロウソクを消します

インダイはE.Vで5回目の誕生日。もうすっかりベテランです。

10月生まれは今回E.Vで初めてお祝いすることになるジョジョとジェサです。それぞれ七歳と六歳になりました。プレゼントをもらって嬉しそうです。



この後は、いつものようにハッピーバースデーを歌い、お腹一杯食べました。

11月はアシスタントディレクターのチェエエ。自分の誕生日に子どもたちを食べ放題の店に招待してくれました。



チェエエは何歳？秘密だそうです。頼もしい人です。

クリスマス、ありがとう



光が地上を見おろすと
あたり一面やみだった
「あそこに行こう」と光は言った

平和が地上を見おろすと
戦争が目にとまった

「あそこに行こう」と平和は言った

愛が地上を見おろすと
憎悪が目映った
「あそこに行こう」と愛は言った

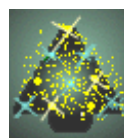
こうして光は地上に現れ
暗やみを追い払った

こうして平和は地上に現れ
戦争をやめさせた

こうして愛は地上に現れ
いのちがもたらされた

そして「言は肉となつて
わたしたちの間に宿られた」のである

ジュゼッペ・ペツレグリーノ





イースタービレッジ雑感 (18)



クリスマスに寄せて

E Vの隣に大きな立派な家が建った。その関係でこちらとしても自前で下水工事をした。その際、普通の下水路ではなく、セメントの上から子どもたちの大好きなビー玉をはめ込んだ。次の日から近所の子どもたちが出来たての下水路を石で叩き、ビー玉を取っていく。新しい下水路はすぐにみずばらしい姿になる。時々ビー玉盗みの子どもを現行犯で捕まえてはひとしきり説教をたれる。

ある時、ビー玉盗みハンターと化していた僕の姿を見ていた職員が、いつもこっぴどく怒られる子どもに同情してか、ビー玉を持ってきてあげたのだ。「ここからは取らないでね。これは皆が見て楽しむものだから。ビー玉が欲しかったんでしょ。だから、今度から直接もらいに来てね。いつでもあげるから。」

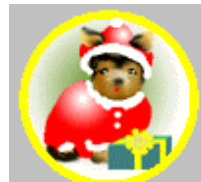


これはまるでイソップ物語の「北風と太陽」ではないか！人の心のコートを脱がせるには、強い北風は必要ない。心を暖める太陽の光を注げばよいのだ。子どもに説教をたれていた自分は、北風役で脅していたのだ。脅しや力では人は真には変わらない。内側から暖める日の光が必要なのだ。その後、ビー玉盗みはなくなった。

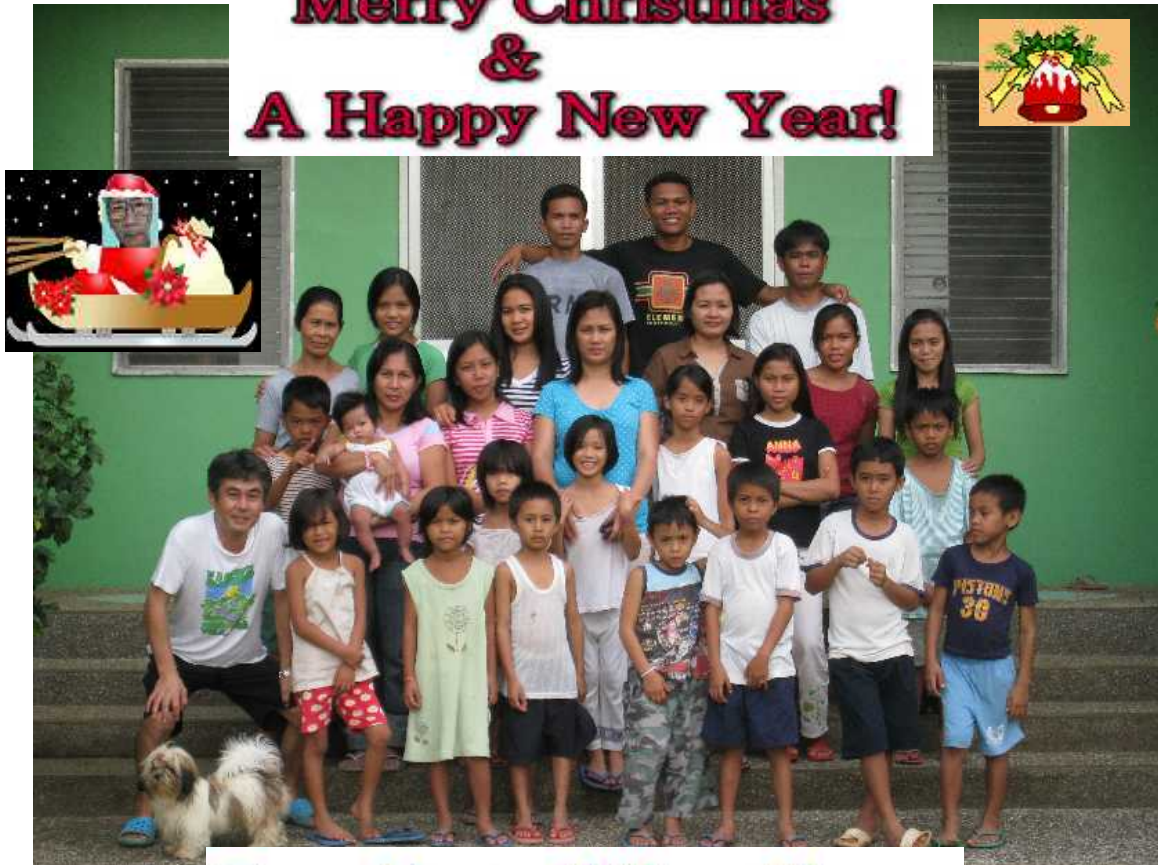


律法や預言者を通して人のかたくなな心のコートを脱がせようとしてきた神は、ついに自ら優しい日の光となって、地上の誰もが近寄れる場所、馬小屋の中にお生まれになった。人のかたくなな心を変えるために権力ある者に生まれ、力で服従させることはせず、もっとも貧しい者の一人となってお生まれになった。

今日、お生まれになったみどり児は、やがて成長し、自分の命をかけて日の光の大事さを生き抜いた。その方の誕生日は2000年以上経った今も、優しさや、和解、愛を記念する日となっている。



Merry Christmas & A Happy New Year!



From Easter Village Home

<支援のお願い>

フィリピン南部にあるイースタービレッジ・ミンダナオは善意ある日本の皆様に支えられています。貧困と紛争の犠牲者となっている声なき子どもたちを私たちが支え、そして彼ら自身が自立し、貧困と紛争の原因を取り除く平和の使者となるようにできるだけだけの援助をしたいと考えています。与える以上に受けるものの方が本当はもっと多いのです。援助をくださる方は下記事務局にご連絡くださいませ。

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」(支援者募集)

代表 勝谷 太治 事務局 鈴木 みち子 松川 厚明

060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館内

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」事務局

011-241-2785 Fax 011-221-3668

支援金 : 年会費一口 ¥5,000 (一口以上) 一般寄付

郵便振替口座番号 : 02760-3-39473

口座名称 : イースタービレッジ・ミンダナオを支える会

現時事務所: EASTER VILLAGE OFFICE

Riverpark Subd., Kidapawan City 9400 Cotabato Philippines

Tel: 63-64-278-4742 Fax: 278-3116 Email: info@eastervillage.com

Website: <http://eastervillage.com>

* 会員、並びに奨学生を支えて下さっているスポンサーの方々、一般のご寄付を下さったの方々には継続してこのたよりを送らせていただきます。(年四回)

2008年12月

「イースタービレッジだより第23号」

発行責任者: 祐川郁生



